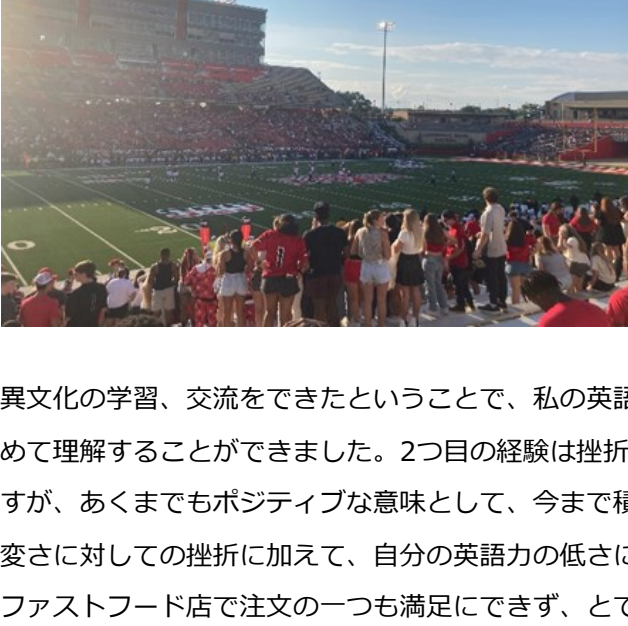


2021・2022 GY留学体験記

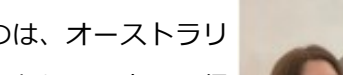
留学先：Arkansas State University（アメリカ）

留学期間：2セメスター



留学を振り返ってみると、本当に多くのことを経験し、学ぶことができたと思います。20年生きてきた中のたった1年ではありましたが、今までの環境とは全く違う環境で過ごす1年はたくさんの刺激を受けました。多くのことを経験した中で、特に2つ挙げたいものがあります。一つ目は英語力の向上です。生きていくのに必要な言語として日常的に英語を使うことで、今までの学習では得られなかった機会を得ることができました。私の中では、今まで英語という物自体が学びの対象でしかなかったのですが、あくまでも言語であり、それを通した

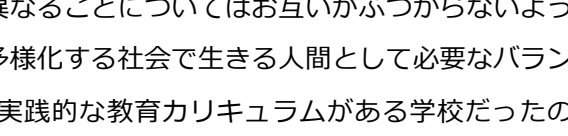
異文化の学習、交流をできたということで、私の英語力も今より何倍にも向上する可能性があるということを知ることができました。2つ目の経験は挫折です。このような書き方をすると大きくなってしましますが、あくまでもポジティブな意味として、今まで積み上げてきたものを崩されました。アメリカでの生活の大変さに対する挫折に加えて、自分の英語力の低さによる挫折もありました。アメリカに着いて初めて行ったファストフード店で注文の一つも満足にできず、とても無力さを感じました。そこで、英会話を聞いたり物事を考えるときに英語を使ってみるなどできることをひとつずつやっていきました。その結果、半年が経過した頃に徐々に英語力の伸びを感じ始め、英語に対する抵抗もほとんどなくなっていました。今回大きな挫折を経験したことで、今の自分よりもレベルの高い目標であったとしても臆することなくチャレンジすることの大切さ、そしてそのためには多くの努力が必要だということも、身をもって体感しました。もちろん、異文化交流や日本では触れることができなかった視点、考え方や学んだことは多くありましたが、中でも英語力の向上と挫折の経験は、留学で得たものとしてとても重要なものだと考えています。（教養学部3年/GY13期生 佐藤稜太）



留学先：University of Technology Sydney（オーストラリア）

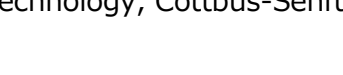
留学期間：2セメスター

私は、2022年7月から約1年間、オーストラリアのシドニー工科大学（UTS）に留学していました。人種・文化的な多様性に富んだ環境で生活することができたのは、オーストラリア・シドニーに留学した一番のメリットであり、日本では得ることのできない経験だったと思います。同じ空間を、人種、文化、ジェンダーなど、非常に多様なバックグラウンドを持った人々が分け合い、各々の言語を話し、各々のスタイルで、各々の文化を尊重し合いながら生きている様子に感激したことを覚えています。留学を通じて、同じコミュニティ



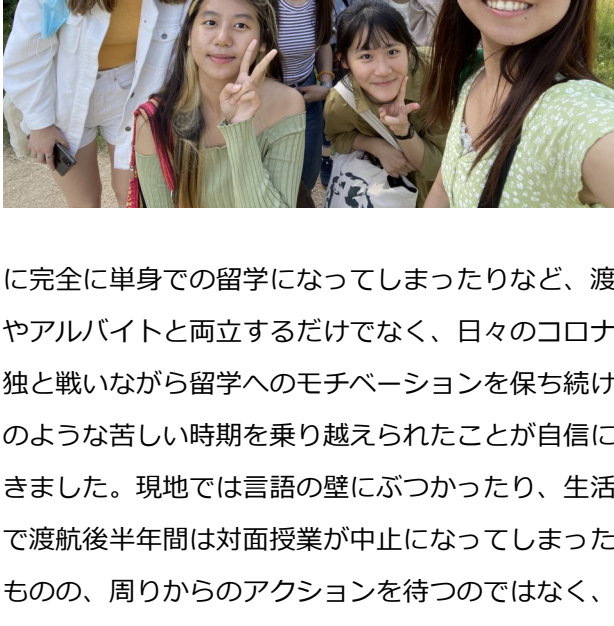
にいる人とどこか共通点を見つけて近づいたり、どうしても異なることについてはお互いがぶつからないよう適度な距離感を保ったりしながら生活するという、これから多様化する社会で生きる人間として必要なバランス感覚のようなものを養うことができた。また、UTSは実践的な教育カリキュラムがある学校だったので、インプットだけでなく、それをもとにクリエイティブな姿勢で新しいものを生み出し、それを様々な立場の人と共有するという、アクティブな学習ができたと思います。私はメディア論を専攻していますが、マイクやカメラ、スタジオなどは豊富な機材や施設を用いて視聴覚作品を作ったり、実在の企業のSNSキャンペーンをグループで立案して企業の担当者からフィードバックをもらったりと、大学の授業とは思えない実践的なワークを体験できました。留学を終えた一番の感想は、「本当に行って良かった！」でした。間違えなく自分の持つ価値観とこれからの可能性の幅が広がった実感があります。今後は、残りの大学生活の中で国際協力への知識を深めていながら、留学生の仲間たちと食卓を囲んだことから興味を持ったフードダイバーシティと関連するような将来のキャリアプランについても考えていきたいです。

（教養学部4年/GY13期生 鈴木南結）

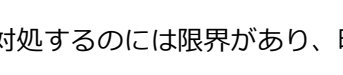


留学先：Brandenburg University of Technology, Cottbus-Senftenberg（ドイツ）

留学期間：2セメスター



留学という体験を振り返ってみると、準備期間も含め留学中は様々な出来事をきっかけに自分と向き合う時間が多く、また、異なる環境に約1年間も身を置く中で得た沢山の気付きや学びを通じて視野が格段に広がり、それらが自分自身の考え方や生き方において多くの影響を与えたと感じています。特に、コロナ禍での留学は自己成長に大きく貢献しました。私が渡航した2021年の秋はまだ水際政策が厳しかった時期であり、渡航前に留学への意思を再確認する異例の面接が実施されたり、同時期に同じ大学へ留学予定だった仲間達が出発を見送ったために完全に単身での留学になってしまったりなど、渡航を決断するのに覚悟が必要でした。留学準備では、学業やアルバイトと両立するだけでなく、日々のコロナ情勢を見て本当に留学できるのかははっきりしない状態で孤独と戦いながら留学へのモチベーションを保ち続けなければならなかったことが一番大変でした。しかし、このような苦しい時期を乗り越えられたことが自信につながり、渡航後は新しい環境で何でも挑戦することができました。現地では言語の壁がぶつかったり、生活上で数々のトラブルに遭遇してきたり、さらには、コロナで渡航後半年間は対面授業が中止になってしまったり、ドイツのコロナ政策で行動が厳しく制限されたりしたもの、周りからのアクションを待つのではなく、常に自分から行動するようにして友達づりに奔走したり、授業中に積極的に発言したりしてききました。また、海外での生活を通して、自立して生きていくための情報収集力と自己管理能力が身に付いたとともに、人とのつながりを大切にする事の重要性について知ることができたと思います。留学前は全てが自己責任で、あらゆることを自力でこなさなければならぬと身構えていたのですが、実際には自分一人で全部を対処するのには限界があり、時には周りの助けが必要となったり、人との付き合いによって得るものが沢山ありました。まとめると、この1年間の留学体験では、自ら行動すれば何らかの道は開けるということや、社会の中で自立して生きているのは完全に自分の力だけで生きることではなく、必要な時には周囲の人に頼っても良いし、人付き合いから生まれるものもあるということを経験しました。留学は、単に語学力を磨いたり、異文化を体験したりするだけではなく、自身の人間力を向上させたり、今後の人生で財産となる世界の人脈を築いたりすることができる貴重な機会でした。改めて、両親をはじめ、私の留学をサポートしてくれた全ての方に感謝の気持ちしかありません。将来はこの留学経験を活かして国際社会に貢献したいと思います。（理学部・生体制御4年/GY11期生 渡辺菜瑚）

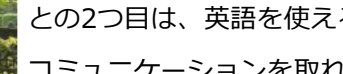


留学先：University of Twente（オランダ）

留学期間：2セメスター



私はオランダのトゥエンテ大学に11カ月の留学をしました。年間を通して成長できたことは2つあります。1つ目は、行動の幅が広がったことです。模擬国連のEU版のイベントに参加したり、モルドバ人・中国人の友達と起業を計画してみたり、ダンスサークルに入って公演をしたりしました。日本で大学生活を送っていたら考えつかないようなチャレンジが出来て良かったです。成長できたことの2つ目は、英語を使えるようになったことです。英語を通してコミュニケーションを取れるようになると、どこに行っても友達を作ることができると気づきました。その結果、情報と機会と刺激を沢山運んでくれる友達と出会えました。何かに悩んだとき、自分一人ではないし、信頼できる、相談できる相手がいる。そう思えるようになったことが、自分にとって一番嬉しかった変化です。またSNSやニュースで、英語の情報を追えるようになり、AIやテクノロジーに関する情報にアクセスしやすくなりました。結果的に、世界のどこにいてもなんとかやっていける、と思えるようになりました。勘違いだとしてもこれは自信に繋がる1歩だったと思います。中学生のころからずっと憧れていた海外生活ですが、自分の中で大学生活のうちにやって良かったこと1位です。（経済学部4年/GY12期 小川風香）



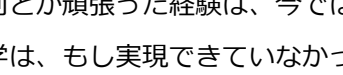
留学先：VIA University College（デンマーク）

留学期間：2セメスター

提出10日前にインフルエンザに罹り、完成が危ぶまれた卒業論文を何とか書き上げて、先日卒業が確定しました…！学生という自由を手放すも残惜しさや、頑張った集大成としての大学卒業を誇らしく思う気持ちと板挟みになりながら、春の卒業を待っています。この期間は人より長い5年間の大学生活を振り返ることも多く、留学を軸に奮闘した大学生活ではGYの先生方をはじめ、指導教官、GYの仲間、友人や家族など周囲の方に数えきれないほど支えていただきました。どれだけ感謝してもしきれません。念願叶った留学も最初は上手くいかなくて、毎日泣いていました。日本では実家から大学に通っていたので、初めての一人暮らしに知人ゼロの異国での生活は戸惑い、苦戦するばかりでした。鍵を差しても重くて回らないのでドアが開かず部屋に入らず、キッチン家電にはよく分からないヨーロッパ式の表示マークで操作方法が分からず、謎仕様の洗濯機は何度試みてもスタートできず…。「私、こんなに何もできなかったっけ…？」と情けなくなる日々でした。親の庇護の下、普通に生活できることが当たり前であった日本では考えられなかったことです。見知らぬ土地、異なる言語や文化で生きていくことの大変さを身をもって学び、行く先々で人の温かさや親切心に救われました。そして周りの人にたくさん助けってもらいながら何とか頑張った経験は、今では自分の自信に繋がっています。数多の困難を乗り越えて掴み取ったデンマーク留学は、もし実現できていなかったらと考えることすら恐ろしくなるほど、私の人生にとってかけがえのない経験となりました。また一歩踏み出して海を飛び越え大陸を飛び越えたからこそ、留学先での友人に出会うことができましたし、その出会いが私の人生を豊かに彩ってくれたと実感しています。ここまで読んでくださった方、チャンスがあればぜひ留学に挑戦してほしいです！応援しています。（教育学部4年/GY11期生 上野楓）

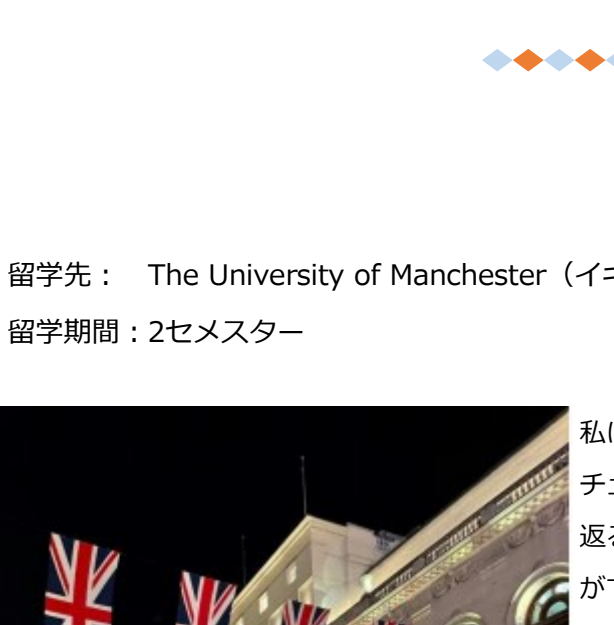


提出10日前にインフルエンザに罹り、完成が危ぶまれた卒業論文を何とか書き上げて、先日卒業が確定しました…！学生という自由を手放すも残惜しさや、頑張った集大成としての大学卒業を誇らしく思う気持ちと板挟みになりながら、春の卒業を待っています。この期間は人より長い5年間の大学生活を振り返ることも多く、留学を軸に奮闘した大学生活ではGYの先生方をはじめ、指導教官、GYの仲間、友人や家族など周囲の方に数えきれないほど支えていただきました。どれだけ感謝してもしきれません。念願叶った留学も最初は上手くいかなくて、毎日泣いていました。日本では実家から大学に通っていたので、初めての一人暮らしに知人ゼロの異国での生活は戸惑い、苦戦するばかりでした。鍵を差しても重くて回らないのでドアが開かず部屋に入らず、キッチン家電にはよく分からないヨーロッパ式の表示マークで操作方法が分からず、謎仕様の洗濯機は何度試みてもスタートできず…。「私、こんなに何もできなかったっけ…？」と情けなくなる日々でした。親の庇護の下、普通に生活できることが当たり前であった日本では考えられなかったことです。見知らぬ土地、異なる言語や文化で生きていくことの大変さを身をもって学び、行く先々で人の温かさや親切心に救われました。そして周りの人にたくさん助けってもらいながら何とか頑張った経験は、今では自分の自信に繋がっています。数多の困難を乗り越えて掴み取ったデンマーク留学は、もし実現できていなかったらと考えることすら恐ろしくなるほど、私の人生にとってかけがえのない経験となりました。また一歩踏み出して海を飛び越え大陸を飛び越えたからこそ、留学先での友人に出会うことができましたし、その出会いが私の人生を豊かに彩ってくれたと実感しています。ここまで読んでくださった方、チャンスがあればぜひ留学に挑戦してほしいです！応援しています。（教育学部4年/GY11期生 上野楓）



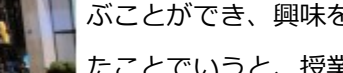
留学先：The University of Manchester（イギリス）

留学期間：2セメスター



私は大学2年生の9月～大学3年生の6月までイギリス/マンチェスター大学に交換留学をしました。留学期間全体を振り返ると、留学は自己を見つめる貴重な時間だったとすることができます。学習面では、学部で国際開発学を専攻するうち、地球環境に興味を持つようになったことがきっかけとなり、地理学を勉強することにしました。イギリスの大学では、ひとつの学問をより掘り下げてじっくり取り組むことができ、地球気候システムなど埼玉大学では学べないことを学ぶことができ、興味を追求することができました。大変だったことという点、授業中のスピードの速いディスカッションや英語の訛りの違いで聞き取れないというのに必死でした。毎回の授業では、事前に論文や教科書を十数ページ指定され、読むことが求められており、タイムマネジメントに苦戦することもありました。話すスピードについては話す機会を多く作って慣れるしかないと思いますが、ディスカッションにおいては完全に準備した上で臨むようにし、失敗しても気にしないマインドセットを持つことで、自信をもって発言できるようになりました。留学生活では何もかも上手くいくわけではないとはじめから心構えをつくっておくと、だいぶ心が楽になると思います。周りの人を上手く頼りながら生活していくことが重要です！また、環境面では、マンチェスターは世界中から留学生が集まる場でした。異なるバックグラウンドを持つ人々と交流する中で、多様な経歴や価値観を持つ人に触れ自分の人生を振り返ると同時に、将来について深く考えさせられました。世界中からそれぞれ目的をもって大学に通っており、こんな生き方もあるんだという新発見がたくさんありました。学士だけでなく修士の人と出会う機会も多くあったので、興味深い話をたくさん聞くこともできました。留学を終え、日々常識を覆えながら過ごす中で、やらなくても何も得ないし、失敗しても良いから挑戦し経験することが成長に繋がると考えるようになりました。私自身、初めての海外渡航だったこともあり挑戦の連続でしたが、GYに繋がってサポートしてもらった、他の国で頑張っているGYの友人の姿に刺激を受けながら最後まで頑張ることが出来ました。留学に迷っている方がいれば、大学生のうちに海外に飛び出してみると新しい自分に出会えるのではないかと思います！

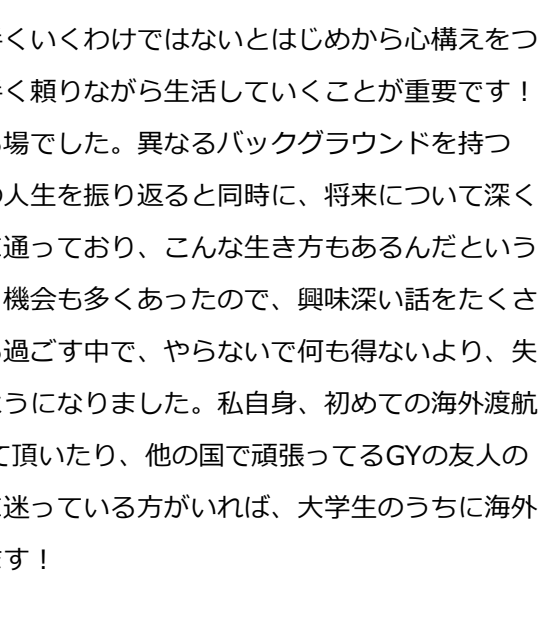
（教養学部3年/GY13期生 鈴木詩織）



留学先：The University of Turin（イタリア）

留学期間：2セメスター

イタリア・トリノ大学に1年間（10ヶ月）留学しました。この1年間の留学は私の人生の中でも大きな挫折であり、それを乗り越えることができたという大きな自信にもなりました。実際、留学は楽しい3割、辛い7割でした。国際開発学は院生を対象に履修を断念しました。また、最初に所属したコミュニティともうまくいかず、日本人が帰国してしまったため、半年後に全てが0からのスタートになりました。その結果、留学の目的である国際開発学を学ぶこともできないし、友達もできない、なんて無力なんだと落ち込み、1ヶ月間部屋に引きこもっていました。一時は帰国



することも視野に入れていました。しかし、「大学4年間の1年を掛け回しているのに、部屋でアニメを見ていていいの。人生一度きりだ！」という気持ちで、日本語交流会の運営や現地の日本食レストランでのアルバイト、現地に永住している日本人家族との交流などの活動を始めました。その結果、日本に興味を持っているイタリア人や多国籍な留学生と交流する事ができ、授業後に集まってアペルティボ（飲み会）をする友達もできました。留学の目的は人それぞれだと思います。しかし、当初考えていた目的も現地に行ってみたら達成できそうにないと言うこともザラにあります。その時に、諦めて帰国するのかそれとももう少しだけ踏み張ってみるのか。それによって得られる体験は全く異なると思います。私は諦めずに行動を起こした事で、人生で大事にしたいと思える友人もできました。1年間を振り返って、学業以外の部分で、大きく成長する事ができた留学だったと思います。これから留学をする人もぜひ、いろいろなことを体験し、悩み、考え、自分にできることを見つけて行動に移してほしいと思います。Buon Viaggio!!

（教養学部3年/GY13期生 前田紗希）



今後更新していきますので楽しみに！